

平成25年4月4日
担当 第6学年 鹿井 光彦

- 1 ねらい
歴史学習やこれまでの地域の環境学習を見学や体験を通してさらに深める。
- 2 評価
仙台市の地域環境や歴史に興味を持ち、生き生きと見学及び体験活動に取り組むことができる。
- 3 学習活動について
 - (1) 社会科 『国土と環境』『国の成り立ち』
 - (2) 総合的な学習の時間
 - 1) 地底の森ミュージアム・縄文の森広場の見学を通して、2 万年前からの仙台の自然環境や人々の生活について知る。
 - 2) 土器・石器類作りの体験学習を通して、人類に知恵や道具の原点にふれ、歴史・環境学習の興味・関心を高める。
- 4 事前学習
2万年前からという時代の長さを、『地底の森ミュージアム学習ノート』や地域学習・歴史学習を通して学習し、今後の学習のめあてを立てさせる。
- 5 当日の活動内容
 - (1) 見学学習
 - 【富沢遺跡保存館】
2万年前からの環境や歴史の変遷、人々の生活の移り変わりの学習をする。
 - 【縄文の森広場】
縄文時代の人々の暮らしの様子や特色を見学を通して学習する
 - (2) 体験学習
 - 【富沢遺跡保存館】
石器作り体験
 - 【縄文の森広場】
勾玉（土器）作り体験
- 6 当日の交通手段 貸し切りバス
- 7 事後指導
体験学習を振り返り、学習のまとめや感想文を書く。
(新聞形式でのまとめやプレゼンテーションソフトを利用したまとめの活動を行う予定)

利用学習報告書

平成25年5月7日

担当 第6学年 鹿井 光彦

1 事後指導について

(1) 実施日

平成25年4月22日(月) 3～4校時

(2) 主な内容

社会科及び総合的な学習の授業で新聞作りを行った。

- ・見学・体験学習のふり返し
- ・旧石器・縄文時代の人々の暮らしの様子まとめ

2 送付する資料

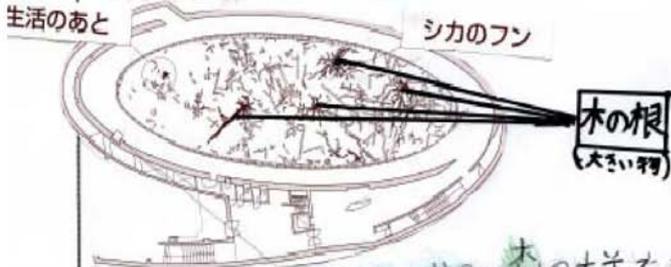
児童のまとめの新聞 4点

地底と縄文の森

名前
日付 4月22日(月)

地底の森ミュージアム

地底の森ミュージアムでは、2万年前の旧石器時代の遺跡が見つかった所です。ここでは木の根、シカのフン、生活したあとなどが残っていました。



外には2万年前の木可食期の木の木葉子が復元されていました。そこには、針葉樹類という木の種類があります。それは、トウヒや松などがありました。

縄文の森広場

縄文の森広場の外には、たて穴住居が3つありました。そのたて穴住居の中は、よごけくさいです。それは、屋根のわらにいる虫を追いたためです。いっしょくまりをたいているからでおそしてたて穴住居に使う木は、全くくりの木です。



土底の森ミュージアムで、作られた矢じり縄文の森でつられたまがたおは、家にかかっている矢じりは、木のぼうにつけてまがたおといっしょにかかっています。

縄文・地底の木

名前
4月22日

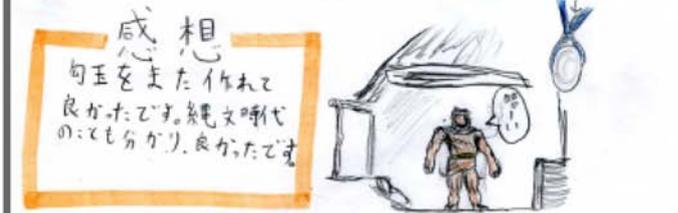
地底の森ミュージアムに行きました。今から2万年前ごろの、当時の人達が生活したあとと森のあとなどが展示されています。地下展示室には、2万年前のシカのフン、生活のあと、「はきとった地層」が展示されています。「はきとった土層」を見てみると昔の地面と現代の地面の高さの差が分かりました。その差は5mもありました。昔の男の人のはかみが長くてヒゲも多かったです。



感想
昔の地面と現代の地面の高さの差が5mもあったのがびっくりして、とても印象に残っています。また行きたいです。

縄文の森広場に行きました。縄文時代は約1万年続きました。縄文人達は、狩りなどを生活していました。

縄文人はアクセサリーをしています。「どんぐりのネックレス」や「耳かざり」、「ひすいのペンダント」などがあり、はく達も作った「勾玉」もあります。「勾玉」の名前の由来は、「勾玉」のまん中を切って横から見ると、玉の形に見えます。だから「まがた玉」という事でその名前がついたそうです。昔の人は、たて穴住居に住んでいました。中は、とても暗かったです。



感想
勾玉をまた作って良かったです。縄文時代のことも分かり、良かったです。

